

高祖道元禪師七百五十回大遠忌

# 黒田老師、午時諷経を奉修

焼香師 香語

高祖法燈方熾然

爾来七百五旬年

心香一弁堪瞻仰

只管禪風隔世縁

高祖こうその法燈ほうとう方まきに熾然しねんたり

爾来じらい 七百五旬年ななひゃくごじゅんねん

心香しんかう一瓣いっぺん瞻仰せんやうするに堪たえたり

只管しかんの禪風ぜんかう世縁せえんを隔へだつ





今年は曹洞宗高祖道元禪師様の七百五十年忌にあたります。昨年の五月から海外、また、国内各地の縁の地で大遠忌予修法要が行われてきました。そして、この三月からは道元禪師様が開山された福井県吉田郡永平寺町の大本山永平寺で大遠忌奉修が行われました。

既に『成寿』前号でご紹介したように、成寿山善光寺住職黒田武志老師は大遠忌奉修で栄えある焼香師を拝命し、五月二十三日、その大命を無事果たしました。





大役を終えた黒田老師



順々に合掌する随行団の皆さん



山代温泉のホテルでくつろぐ一行

当日は、午後十二時半、木村副監院の献湯諷  
 経に続いて、黒田老師の午時諷経が行われまし  
 た。黒田老師の朗々とした読経の音が永平寺本  
 堂を包み込む静寂の中に厳かに響き渡ります。  
 そして、その錚々たる響きの中に道元禪師の功

績が、今、改めて甦ろうとしています。  
 この日、横浜からは道元禪師の遺徳を偲びな  
 がら、黒田老師の晴れ姿をまぶたに焼き付けよ  
 うと善光寺壇信徒の皆さん総勢百名が大遠忌法  
 要に参列、五十年に一度という貴重な時間を過



清水寺では北法相宗清水寺貫主森清範猯下自ら随行団をお迎えくださいました



清水寺で。永平寺でのお参りも終わって旅の気分を満喫する随行団の皆さんと黒田老師

ございました。深い木立に囲まれた永平寺、全国からお参りに集う人々。七百五十回大遠忌という独特の雰囲気の中で新たな心のよりどころに出会うことができたのでしょうか。  
 一行は山代温泉で一泊した後、バスで京都に向かい、太祖瑩山禅師様ゆかりの顕彰碑の建つ清水寺貫主猯下の法話をいただき、京都御所を見学した後、新幹線で帰途につきました。